

Ⅲ 「基準」ごとの自己評価

基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

《1-1の視点》

1-1-① 建学の精神、大学の基本理念が学内外に示されているか。

(1) 1-1の事実の説明（現状）

学外に対しては、各種広報資料（大学案内、大学通信『関西国際大学通信 KUIS Campus News』、大学ウェブサイト等）への掲載等を通して、建学の精神・大学の基本理念を伝えている。教職員に対しては、年初や辞令交付式等の各種式典や「新任者研修会」において、理事長・学長訓話を通して、建学の精神・大学の基本理念の周知徹底に務めている。学生に対しては、入学式・卒業式における学長挨拶や「KUIS Student Guide」（毎年、全学生に配布される学生手帳）への掲載、新入生ガイダンス等を通して、建学の精神・大学の基本理念の周知に努めている。各種式典やスポーツ部の対外試合等において斉唱される「関西国際大学学歌」にも、大学の基本理念が歌詞として表現されている。保護者に対しては、入学式・卒業式における学長挨拶や大学通信『関西国際大学通信 KUIS Campus News』への記載、保護者懇談会等を通して伝えている。

(2) 1-1の自己評価

建学の精神・大学の基本理念を学内外に伝えるために、様々な方策を講じていると評価できる。しかし、建学の精神・大学の基本理念が学生によって十分に理解・認識されているとは言えず、様々な機会を通して周知徹底する必要がある。従って、学生に建学の精神・大学の基本理念を伝える教職員の理解・認識の向上にも努める必要がある。

(3) 1-1の改善・向上方策（将来計画）

建学の精神・大学の基本理念に関する教職員の理解・認識の向上については、FDやSD等を有効に活用する。とりわけ教員に関しては、シラバスに明記することを義務づけている各科目と「KUIS 学習ベンチマーク」（以下、ベンチマーク）との関連（「学習目標及び目標とするベンチマーク」の欄）を通して、各科目、ベンチマークと大学の基本理念等との関連を意識化させる。さらに授業進行途中で、定期的に各科目とベンチマークとの関連性を意識化させることで、大学の基本理念についての理解・認識を向上させる。

1-2 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

《1-2の視点》

1-2-① 建学の精神、大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が学則などに明確に定められているか。

1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

(1) 1-2の事実の説明(現状)

Iの「2. 使命と目的」で述べたように、建学の精神・大学の基本理念を踏まえた使命と目的は、学則に規定されている。各学部と大学院における人材養成目的についても、各学部学則及び大学院学則に規定している。また、人材養成目的を実現するためにベンチマークを制定した。

大学全体の人材養成目的及び教育目標、ベンチマーク等は、KUIS Student Guide や大学ウェブサイトに掲載している。各学部、大学院の人材養成目的については、大学ウェブサイトで公表するとともに、学期はじめのガイダンスごとに再確認している。

ベンチマークについては、各学期のはじめと終わりに、学生自身による達成度についてのチェックシート記入を実施すると同時に、学習成果をベンチマークと関連させて振り返り、Eポートフォリオ(学習成果をウェブサイト上に蓄積したもの)に記入・蓄積している。このような継続的な振り返りを通して、学生はベンチマークや教育目標を意識化している。

教員に関しては、学生のEポートフォリオに対する定期的なコメント等による指導を通して、ベンチマークや教育目標について再確認している。また、各科目のシラバスへの記入が義務づけられている、「学習目標及び目標とするベンチマーク」を意識した授業展開を行い、各科目とベンチマークや教育目標について再確認している。

大学の使命と目的の学外への公表は、各種広報資料(大学案内、大学通信、大学ウェブサイト等)への掲載、入学式・卒業式における学長挨拶、オープンキャンパス、高校訪問での説明等を通して行っている。さらに公表の機会を広げるため、学生の地域貢献活動や各種実習においても、受入先で使命や目的を説明している。

(2) 1-2の自己評価

大学の使命と目的を学内外に伝えるために、様々な方法を講じていると評価できる。しかし、学外への公表・周知については、なお不十分である。

ベンチマークの制定と公表は、アメリカにおける Learning Outcomes、英国の Benchmark、オーストラリアの Graduate Attributes 等のように、到達目標としての学習成果を予め公表するという、高等教育の世界的動向と歩調を合わせるものと評価できる。同時に、ベンチマークの制定は、平成20(2008)年3月に公表された中央教育審議会大学分科会制度・教育部会の審議まとめ「学士課程教育の構築に向けて」の中に参考指針として掲げられた、「学士力」を先取りするものと評価できる。しかし、ベンチマークの実現状況に関する全学的なデータ収集は不十分である。

(3) 1-2の改善・向上方策(将来計画)

前項に記した通り、大学の使命と目的の学外への公表・周知については、なお不十分であり、説明の機会を増やすだけでなく、使命と目的をわかりやすく伝える資料や説明方法について、検討・改善を行う。

ベンチマークの実現状況に関する全学的データに関しては、従来の紙によるチェックシートをデジタル化し、数量的な把握を実現することで教育改善に活用する。ベンチマーク

の定着と推進に関しては、各科目が目標とするベンチマークを一覧できる「ラーニングマップ」を現在作成中である。これを完成・充実させることにより、学生及び教職員が、科目とベンチマークとの関連性を容易に確認できるようにする。

[基準1の自己評価]

建学の精神・大学の基本理念と、それに基づく大学の使命と目的を学内外に伝えるために、様々な方策を講じてきたと評価できる。人材養成目的を実現するための学習到達目標を明示したベンチマークは、高等教育の世界的動向を踏まえるとともに、中央教育審議会の答申を先取りするものと評価できる。

しかし、建学の精神・大学の基本理念については、学生が十分に理解・認識しているとは言えず、周知の方策を講じる余地がある。また、大学の使命と目的については、学外への公表・周知の方策を講じる必要がある。ベンチマークについては、実現状況に関する全学的なデータ収集が必要である。

[基準1の改善・向上方策(将来計画)]

建学の精神大学の基本理念の学内的な周知については、FD や SD 等を活用した教職員の理解・認識の向上を図るとともに、授業運営において、ベンチマークと各科目との関連性を常に意識化することで、ベンチマークのもととなる大学の基本理念に対する、学生の理解・認識の向上を図る。大学の使命・目的に関する学外的な周知については、説明の機会を増やすだけでなく、わかりやすい資料作成や説明方法について検討・改善を行う。ベンチマークの実現状況については、チェックシートをデジタル化し、全学的なデータ収集と数量的な把握を容易にする。